

齋藤茂樹の 北関東巡り



令和5年(2023) 1月27日

9

2022年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で中川大志さんが演じた畠山重忠ゆかりの地を昨年巡りました。ちょうどドラマで畠山重忠のクライマックスが放送される前日でした。同じ思いの人も多かったようで、予想以上に来場者がおりました。

古鎌倉街道

「鎌倉殿の13人」で話題になった鎌倉街道は、埼玉県比企郡滑川町の国営武蔵丘陵森林公園の中を通っています。鎌倉街道は、各地より鎌倉に至る道路のことで、とくに鎌倉時代に鎌倉政庁が在った鎌倉と各地を結んだ古道については鎌倉往還や鎌倉みち道とも呼ばれました。

古道としての鎌倉街道は、鎌倉幕府の御家人が「いざ鎌倉」という有事の際、鎌倉殿の元に馳せ参じた道で、鎌倉時代の関東近郊の主要道でした。



武蔵丘陵森林公園を通る古鎌倉街道



鎌倉幕府が成立した年は、「いい国つくろう鎌倉幕府」という語呂合わせで覚えましたが、近年そうではないとの見方が有力になっているようです。源頼朝が征夷大将軍となった1192年ではなく、鎌倉幕府を構成する組織が1180年から徐々に設置されるなど、1192年までの間に段階的に整えられていった、従って、1192年は「成立」ではなく、鎌倉幕府という組織の基本形態が名実ともに「完成」したという見方が優勢になっているようです。



鎌倉時代の史書『吾妻鏡』には「奥大道」^{あづまかがみ}、「下道」^{しもつみち}、また南北朝時代の『太平記』には「上道」^{かみつみち}、「下道」^{しもつみち}とあります。

つまり《鎌倉街道》という呼び方は、江戸時代以降になって使用されたものであり、時期的には鎌倉時代のみならず、それ以降の南北朝から室町時代にかけて整備された「古くからの道」を指すことが多いとされています。

「上道」^{かみつみち}は、鎌倉から東京都東村山市一埼玉県所沢市を経て毛呂山町一嵐山町などの埼玉県西部を縦断して児玉町を通り、群

馬県藤岡方面に向かう道ですが、その途中、国営武蔵丘陵森林公園の中を通過しています。「中道」^{なかつみち}は、埼玉県川口市から岩槻を経て茨城県古河方面に向かう道、「下道」^{しもつみち}は千葉県から茨城県太平洋沿岸を北上する道です。

しげただ 畠山重忠公史跡公園

埼玉県深谷市の畠山重忠公史跡公園は重忠生誕地で、ひよどりごえの戦場で馬を傷つけないように背負った時の像、産湯の井戸、お墓などがありました。



公園入り口



重忠公産湯井戸



重忠公ひよどりごえ像



〔編集者からひとこと〕

埼玉県深谷市には、**渋沢栄一**^{ちあらいじま}のふるさと血洗島があります。コロナ禍真っ盛りの令和3年(2021)2月6日、この地で、栄一の見立て養子・**渋沢平九郎**を主人公にした<歌劇 幕臣・渋沢平九郎>の初演を行い、私は合唱団・端役・顧問として参画しました。何度となく足を運ぶうちすっかり土地に詳しくなりました。コロナ禍を乗り越えて上演に至ったストーリーは、『**コロナ禍乗り越えオペラ上演<歌劇 幕臣・渋沢平九郎>**』として、アマゾン・オンデマンドより出版しました。その後、この歌劇は第3回公演まで開催されています。

<https://www.amazon.co.jp/gp/product/4802092393>

●●●●●●●●●● 畠山重忠の居館 菅谷館跡 ●●●●●●●●●●

埼玉県比企郡嵐山町^{らんざんまち}にある、畠山重忠の住んでいた菅谷館^{すがややかた}に行きました。ここは、国指定史跡で、日本城郭協会より「続日本100名城」に認定されています。土塁や堀がよく残っています。

ここにある埼玉県立嵐山史跡の博物館は館内展示品撮影可でしたので展示品を観て楽しむとともに、撮った写真で歴史好きの知人たちと語り合っ楽しむことも出来ました。展示品の解説がとても丁寧で観やすくわかりやすく素晴らしい博物館でした。



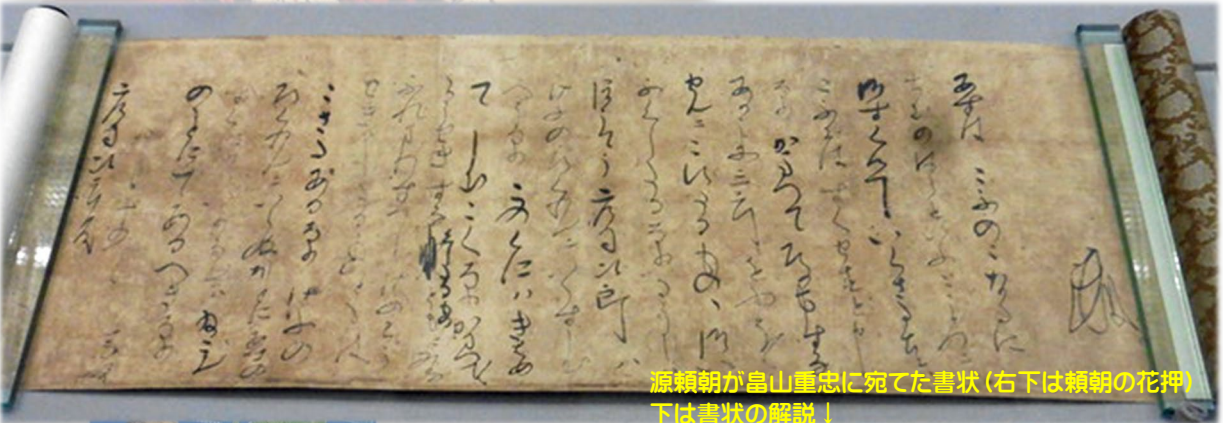
畠山重忠公像



菅谷館土塁



畠山重忠像



源頼朝が畠山重忠に宛てた書状(右下は頼朝の花押) 下は書状の解説!



展示品

頼朝が重忠にあてた指示書
そでばんたいらのもりときほうしよ
 (複製)源頼朝袖判 平 盛時奉書【島津家文書】
 ぶんじ 文治5年(1189)、あつかし 阿津賀志山(福島県伊達 だて くにみまち 郡国見町)の合戦終了後に駐留軍が乱暴 狼藉を行わないよう、頼朝しょうじじろうが庄司次郎(重忠)に監視監督を命じた文書です。
 (文治5年)8月15日 原資料 東京大学史料編纂所蔵

上の画像の右手にある小さなシンバルのようなものは銅拍子と呼ばれるもので、静御前が鶴岡八幡宮で舞を舞った際、畠山重忠が演奏した物の復元品です。



重忠の墓

ろうばい もてぎじょう 蠟梅の咲く茂木城

各所で^{ろうばい}蠟梅の美しい花ととても良い香りに出会うようになりました。つい先日、^{もてぎじょう}蠟梅の咲く時期に茂木城に行くことが出来ました。

^{もてぎじょう}茂木城は、栃木県芳賀郡茂木町にあった中世の山城です。宇都宮氏の支族であった^{もてぎとももと}茂木知基によって、建久年間(1190年・1199年)に築城されました。その後、幾多の変遷を経て、慶長15年(1610)に廃城となりました。

現在の城跡は城山公園となっており、城跡はよく整備が行き届き、土塁・空堀・平坦地を楽しみ、また、市内を見下ろす景色も楽しみ、そして一番の目的の^{ろうばい}蠟梅を十分楽しみました。

ここで、2022年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で市原隼人さんが演じた八田^{ともいえ}知家の名も出てきました。



茂木城跡

ろうばい
蜜蝋梅の美しい花ととても良い香りのろうばいは12月からの咲き始めから花を咲かせます。花は葉の裏に咲くのが特徴です。

アジサイ
毎年6月下旬から7月上旬にかけて咲き始め、7月中旬まであじさいの花が咲き始めます。

ヒガンバナ
城跡の中心部を中心に咲き始めます。黄白色の花が咲き始めます。黄白色の花が咲き始めます。

サクラ
3月下旬から5月上旬にかけて、数種類のサクラが咲き始めます。

茂木氏と茂木城

鎌倉幕府の有力御家人八田知家は、奥州藤原氏討伐の際の功により、源頼朝から下野国茂木郡を賜り、三男知基をしてここを守らせたのが建久3年(1192年)である。

知基はこの地の結城山に城を築き茂木氏を名乗った。以後400年ほどにわたり茂木氏の居城となり慶長15年(1610)年細川興元によって廃城になるまで続いた。

茂木氏は武勇の士として知られたが、特に南北朝時代には大いに勢力が及び、越後のなかに度々現れた。その歴史もしている。

徳川氏の時代では、佐竹氏と共に八田八郎尉になり茂木氏の時代は終わった。細川忠興の弟貞元は茂木を領するや、城下の民衆に領地をつくり茂木を興した。

その後茂木城跡は耕地や山林として利用されたが、空堀や土塁、池など戦国時代の山荘の残存を幾つか見ることができ、そのままだと保存されており、茂木町の誇れる文化財になっている。

茂木町観光協会
☎0285-63-5644

あとかき

前号(8)で、鈴木傳六氏のお話と編集者加藤良一様とのご関係を教えてくださいありがとうございました。驚きました。子供の頃よく「でん六豆」の商業ソングを歌っていたことを思い出しました。また、2014年に山形城(霞城公園)に行き最上義光像の写真↓を撮ってありました。



【バックナンバー】

- 齋藤茂樹の北関東巡り 1
- 齋藤茂樹の北関東巡り 2
- 齋藤茂樹の北関東巡り 3
- 齋藤茂樹の北関東巡り 4
- 齋藤茂樹の北関東巡り 5
- 齋藤茂樹の北関東巡り 6
- 齋藤茂樹の北関東巡り 7
- 齋藤茂樹の北関東巡り 8

[Back](#)

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

[Home](#)

「ホームページ」表紙へ戻る